

農福連携による「小谷漬け再生プロジェクト」

坪山のビニールハウスで小谷漬けの野菜栽培を行う
「ワーカーズコープ長野」と「maica ～米花～」の皆さん！
農福連携を通じた地域課題の解決に向けた役割を担っています

新議長あいさつ・議員構成変更……②

6月議会案件……③

一般質問 ……④～⑨

村民対談特集 ～これからのむらづくり、女性の声を市政に～ ……⑩～⑪

議会活動報告・編集後記 ……⑫

《一般質問》

動画配信

はじめました！

 YouTube

議長就任挨拶

宮澤 正廣



この度、議会申し合わせ事項により、令和6年5月9日から、議長に就任いたしました。

元より浅学非才の身ではありますが、小谷村のため、また小谷村を担ってゆく若者たちのために邁進していく所存であります。

さて、議会は行政の事業実施、事務処理等が公正かつ効率的に執行されているかチェックする重要な機関です。村づくりの方向を見据え、適度な距離を保ちつつ、連携を深めながら「安心安全で住みつけたい村」「暮らしてみたい村」になるよう議論をしま

りたいと存じます。現在、小谷村では「おたりつぐら」や「山菜加工場」の運営や、村営住宅の老朽化、さらには観光事業の再生など経済の活性化に資すること、そして少子高齢化・高齢者福祉など生活に資することなど、課題は多くあります。議会といたしまして住民の声を聞き、付託に応えられるよう、また、責務を完遂できるように努力してまいります。これからも、議会の円滑な運営と「住みつけたい村」のために、より一層の努力をしてまいりますので、村民の皆様のご指導とご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。まして就任の挨拶といたします。



副議長 柴田 友造 議員



総務委員長 吉岡 久人 議員



経済委員長 清水 秀雄 議員



議会運営委員長 吉澤 学 議員



広報委員長 相澤 稔 議員

議会構成（令和6年5月9日～）

議会構成		総務委員会		経済委員会	
議長	宮澤 正廣	委員長	吉岡 久人	委員長	清水 秀雄
副議長	柴田 友造	副委員長	田原 富美子	副委員長	横澤 匠
		委員	柴田 友造	委員	深澤 英喜
		委員	相澤 稔	委員	吉澤 学
		委員	曾根原 恵子	委員	宮澤 正廣

議会運営委員会		広報委員会	
委員長	吉澤 学	委員長	相澤 稔
副委員長	吉岡 久人	副委員長	横澤 匠
委員	清水 秀雄	委員	田原 富美子
委員	相澤 稔	委員	深澤 英喜
		委員	曾根原 恵子



承認・議決結果

◇令和6年5月臨時会

番号	件名	審議結果
報第 2号	工事請負契約締結（小谷橋橋梁修繕工事）の専決処分報告	承認
議案第51号	小谷村税条例の一部を改正する条例について	可決
議案第52号	小谷村国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	可決
議案第53号	令和6年度小谷村一般会計補正予算（第1号）	可決
議案第54号	村道路線の変更認定について（雨中線）	可決

◇6月定例会

番号	件名	審議結果
報第 3号	令和5年度小谷村一般会計補正予算（第9号）の専決処分報告	承認
報第 4号	令和5年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第5号）の専決処分報告	承認
報第 5号	令和5年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第4号）の専決処分報告	承認
報第 6号	損害賠償の和解並びに額を定めることの専決処分	承認
議案第55号	小谷村福祉医療費給付条例の一部を改正する条例について	可決
議案第56号	令和6年度小谷村一般会計補正予算（第2号）	可決
議案第57号	令和6年度小谷村国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第58号	令和6年度小谷村国民健康保険診療施設特別会計補正予算（第1号）	可決
議案第59号	令和6年度小谷村簡易水道事業会計補正予算（第1号）	可決
議案第60号	売買契約の締結について（小型凍結防止剤散布車3t級1台の購入）	可決
発議第5号	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める意見書（案）について	可決
発議第6号	「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める意見書（案）について	可決

◇請願・陳情

番号	件名	審議結果
請第 5号	「へき地教育振興法に鑑み、へき地手当等支給率を近隣県並みの水準に戻すこと」を長野県知事に求める陳情書	採択
請第 6号	「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める陳情書	採択
請第 7号	地方自治体を「国の下部組織へ変容させる」ことにつながる「地方自治法の一部を改正する法律案」の廃案を求める意見書の提出を求める陳情書	不採択

よこさわ たくみ
横澤 匠 議員

問 消滅させない村づくりの施策は

答 住宅対策がより必要だ

消滅する可能性ある自治体リストに該当したことについて

問 報道機関の記事で「10年前の減少率が非常に悪かったため、危機感を持って対策に取り組んできた。子育て支援策・除雪対策などに力を入れ、「日本一住みやすい村」だと発信したことが要因ではないか」と村長はコメントしているが、「日本一住みやすい村」とする事業の内容とは。

答 村長 全村民が小谷で暮らす評判を上げてくれたことが要因のひとつだ。特に子育て世代の皆さんから直接発信していただいたことによって、我々自治体の発信する何倍の効果があったものと感じるところだ。

問 除雪対策に力を入れたいとコメントしているが、対策の内容は。

答 建設水道課長 除雪機械の維持管理をし

っかりとし、村内道路の除雪体制を整えている。

村長 歩道の除雪について、各地域に除雪機を配備し、地域住民のみなさんに協力を得て細かい除雪体制を実施している。また、雪に馴れない、移住者の皆さんにも、除雪機の操作方法等、住民の皆さんが、親切に教えてあげることも対策のひとつだ。

問 新聞記事では、北相木村・南相木村はリストから外れ、ともに要因は山村留学や親子留学の効果があったと書いてあった。村長任期中に親子留学の実現について現段階での取り組みは。

答 村長 親子留学で地域を知ってもらい最終的に移住定住につながることを期待する考えを巡らしている。

問 移住定住の住宅整備の今後は。

答 総務課長 村営住宅空き家を含めて総合

的な課題として考えていく。
村長 空き家対策ともリンクした住宅対策は、「消滅させない」これからの施策として必要だ。

安心・安全な観光地域づくり施策について

問 夕食難民の現状課題は。また対策は。

答 村長 村内で夕食を食べられる施設が限られていたことが課題のひとつだ。泊食分離バスについても課題を含め検討する。

問 テナント等に対しての支援はできないか。

答 観光地域振興課長 様子を聞いて検討する。

問 JR各駅のアクセス、早朝の登山客対応など、2次交通の課題解決の交通施策は。

答 村長 早朝の対応は考える必要がある。
問 今年、登山客ターゲットの夜行特急列

車が運行するが、2次交通は。

答 観光地域振興課長 運行の依頼はしたい。

問 山岳観光地として安心・安全な登山体制・登山客への配慮として、索道の早朝運行の要望は。

答 観光地域振興課長 運行の要望はしたい。梅池自然園楠川トイレの改善は。

問 レの改善は。

答 観光地域振興課長 考えたい。



外国人の夕食風景（サンティンおたり）

問 村の人口が25年後に半減し、消滅の危機に…どんな取り組みをしていくか

答 『地域コミュニティ』を醸成し、思いやりに溢れた明るい村を目指す

あいざわ みのる
相澤 稔 議員

これからの小谷村について

問 地元紙の報道によると、民間組織「人口戦略会議」が将来「消滅の可能性がある」と見なし、公表した全国の市町村の中に、小谷村が「社会減対策が極めて必要」な市町村に当たる、とあった。一連の報道を受けて、この問題についてどのように受け止めているか。

答 村長 確かにショッキングな記事として受け止めてはいるが、前回10年前に比べ小谷村の数値は改善されている。政策や施策は一定の評価を得ていると考えても良いのではと思う。「社会減対策」につながる大きな要素として「地域コミュニティ」が大事なものの一つと考える。近所付き合いやふれあい、適度な距離感を保ちながら互いに助け合う、小谷村の人情あふれる村民性は大き

なポイントになる。

問 転出者数が転入者数を上回るということ、は村の個性や魅力が問われていることも受け止められる。20年前、村に移住され活躍されている方の「生活する人がいる限り消滅なんかない。不便でもここで生きる。」そんな声をどんな思いで受け止めるか。

答 村長 大変心強い言葉で有り難く思う。他の人から小谷に移住を決断した理由として自然や思いやりある人間性と伺った。不便さは解決できるものがあれば時間をかけてでも対処する。

問 奈良県には人口が341人の村があり、年間15万人の観光客が訪れるという。長野県にも人口366人の村がある。小谷村の人口が半減したとしても消滅はあり得ない。現在の移住定住の取り組みを村を挙げ、村民参加で継続発展させたい。

答 村長 日本には人口が少なくても輝いている村が多くあり長野県の平谷村もそうである。移住定住の相談会や友好姉妹都市との交流などにも村民参加の機会を設け生の声や情報を届けたい。

村内で進められている新電源開発について

問 現在村内で進められているフスプリ山地熱発電計画と土沢川小水力発電計画の事業者、事業内容、進捗状況は、又、村の関りと今後の対応は。

答 村長 地熱発電計画については中部電力（株）と日本重化学工業（株）が主体で平成29年に着手し令和2年から地下掘削調査が始まり昨年には仮噴気試験が実施された。本年も新たな掘削調査を行うと聞く。小水力発電計画は（株）グリーン電力が平成29年に調査に着手、地元地区には令和2年から協議や説明

会を2回開催している。村でも開発計画審議会などで事業内容を確認している。昨年計画が大幅に変更になり、事業を再確認し対応を考えていく。

問 地熱発電計画は希少で目新しい事業と思うが住民の関心が低いと感ずる。もっと積極的に関わることとはできないか。

答 総務課長 村では毎年住民説明会を開催するほか、回覧文書も作成し、周知に努めている。

問 地熱発電施設は歴史は古いが全国的にはまだまだ少ない。近年観光資源として注目を集めている地域もあるが。

答 観光地域振興課長 修学旅行先として学習の対象になっているものもあると聞く。本計画が成功し稼働することになればもちろん貴重な観光資源になる。村でも期待している。





ひでたき 英喜 議員

問 ガスパオタリ来シーズンは

答 実施を含め検討する必要がある

動画はこちらから



県道千国北城線について

問 中島地籍区間通行止め「5月7日から11月29日」、道路拡張工区間が短いにも関わらず6ヶ月と長い通行止めについての理由は。

片側通行はできないか。

答 村長 約100mの道路改良工事を行っている。L型擁壁の設置や、農業用水路の布設替え予定をしており、車両通行に支障が生じることから全面通行止めとした。村として工事の進捗に応じ早期解放を県に願う。

問 年4,000万円を超える運営費、2階については利用者のほどこない状況。直営になって2年が経過した。改めて建設費・追加工事・修繕費等は。

答 村長 建設費は、8億3,029万9,000円。

問 複合拠点施設について

答 村長 建設費は、8億3,029万9,000円。

令和3年度支出合計
4,489万4,279円。
令和4年度支出合計
399万2,010円。
令和5年度支出合計
120万8,194円。

問 施設運営費は、実際の計画時の試算と現状の運営費との差異は。

答 村長 運営費の差異を比較することは難しい。出来るだけ効率よく大勢の村民の皆さんに利用していただけるよう引き続き取り組んでいく。

問 以前、村民から完成された建物への投書があった。また、私自身は建物の見直しの提案をした。投書内容と現に運営している事業の相違点、また今後利用者増に向けての施策は。

答 村長 安心住居のための個室3部屋、その他の12部屋については関係人口、移住者体験、コワーキングなどの取り組みをしている。村民ニーズは日々変化する。

上で取扱規程等を整備した方がよいかと考える。また、必要に応じ委員会の設置なども規程等の整備の中で考える。

行財政と人口対策について

問 村営バス、スクールバス等の委託料が約1億3700万円で多額の費用がかかっている。事業の見直しは。

答 村長 2024年問題にも関連して委託料が増額となった。村内唯一の交通機関であり、車を運転できない方の移動手段として安易に無くすことはできない。スクールバスも児童生徒の乗車人数により現行の運行便数、バスのサイズなども必要最低限確保する必要がある、これまで様々なダイヤの見直しをしてきたが、中々思うようにいかないのが現状で、見直しの必要性は重々承知している。



村民の必要不可欠な公共交通

問 村内事業者の力を借りて移住定住のための住宅を整備し、その費用に対して補助金を支出できないか。

答 総務課長 県内でも移住定住促進を図ることを目的に民間の賃貸住宅建築に対して補助している市町村がある。村営住宅は稼働率が高い状況が続いているため、民間事業者の協力が得られるのであれば、補助事業を研究する必要があると考える。

問 地域おこし協力隊と集落支援員について

導入した経緯、活動状況、実績、協力隊

る。今後も多くの村民の皆さんに利用していただけるような施設運営を目指す。

ガスパオタリ泊食分離・夕食難民対策について

問 予算2,000万円で計画した事業。結果として事業費1,465万5,650円、利用者56人。総括「低調な結果」「認知度の低さ」でした。

答 村長 海外のお客様の旅行スタイルが主流であることから、夕食等の提供を移動確保も合わせて行うことで夕食難民の解決を図ることが狙いで実証実験をした。

問 事業結果及び決算額から事業の必要性和反省点・課題は。

答 村長 1月10日から2月18日までの39日間の運行で、利用者は56人、



ガスパOTARIの送迎バス

外国の方の利用が9割。反省点として、予約システムが難解であった、プロモーションの開始が遅延し年明けとなった、旅行客に認知されるのが遅かった。

問 反省点や課題、必要性的も踏まえ、来シーズンの検討は。

答 村長 泊食分離は必要と思う。今期の結果を踏まえ、実施そのものを含めて検討する。必要であるとの声もあり来シーズンに向けて自走できる仕組み、低予算でできる体制などを検討する必要がある。

員の定住率は。

答 村長 人口減少率17・8%（H17国調3,920人↓H22国調3,221人）、県下2番目、全国10番目となり、ふるさとが無くなってしまう強い危機感から始まった。これまでに退任した協力隊員の数は39名「観光・農業・振興や、特産品開発」の産業分野が13名「集落の活性化・地域の課題解決」が9名、その他「空き家対策」「CATV番組制作」などを取り組んだ。近年は「インバウンド対応」「SNSなどを活用した情報発信」など課題の解決に向けた具体的な目的による募集・採用を実施している。全国状況は女性4割、20～30歳代が7割、退任直後の定住率が65%。村の状況は全国同様に女性4割、20～30歳代が6割、退任直後の定住率が25名で64・1%、村内で起業された隊員は13名、就業が12名となっている。

問 村内事業者の力を借り住宅整備に補助金を支出できないか

答 協力が得られるのであれば、補助事業を研究する必要がある



しばた ゆうぞう 柴田 友造 議員

土地や建物の寄付採納について

問 どのような理由で寄付しているのか。事務取扱要綱や規程はあるのか。

答 村長 両親が住んで身が高齢化で管理ができな。相続すべき次の代の方が村との関りが無いため、今以上に管理ができなくなることを危惧している。村道等、今後の村全体の管理を考えると寄付を受けざるを得ない状況である。財務規則及び用地事務処理規程により、事務手続きをしている。

問 事務取扱要綱や規程及び公有財産取得検討委員会的な組織も必要。

答 総務課長 建物が存する土地のほか、権利設定されている土地や、墓地、共有地などは受けることができないと伝えている。こうした状況を整理する

動画はこちらから





そね はらけいこ 議員
曾根原恵子

高齢者の生活支援環境整備を

問 小谷村社会福祉協議会職員の就労実態は。他産業との賃金差は6万円、どう考えるか。

答 村長 処遇については役場職員と同じ給料表を採用。令和5年度は、特別昇給も村独自で実施した。

問 今回の国の報酬引き下げ改定により運営が悪化し職員の処遇改善加算が実現できないのでは。

答 村長 運営財源は介護報酬と村の補助金。村内唯一の事業所で社会資源であるため村は補助金を交付し運営に関わっている。

問 職員の定着率はどうか。

答 村長 新規採用者もあり人員不足とは言えない。

問 人員不足の場合は、食事・排泄・入浴介

助に集中せざるを得ない。利用者の生きがい・楽しみに

かわる介護の時間が大切。「管理型介護」の助長にならないよう。

答 住民福祉課長 「ゆとりの介護」を目標にしたい。

問 訪問介護等における送迎経費の負担や除雪経費支援を。

答 村長 村からの補助金にはそれらの経費も含まれている。

問 国に対して「訪問介護の引き下げの見直しや、介護報酬引き上げを

答 村長 必要に応じて要望していく。

地域経済循環で村内事業活性化を

問 住宅リフォーム事業見直し、補助率の引き上げ、上限額の改定、5年サイクルを3年に。

答 観光振興課長 補助金活用で改修工事

による村内業者への経済効果、税収も見込まれる。

創設から10年、資材高騰などに対応した内容検討が考えられる。

問 農産物地産地消の振興策は。

答 村長 畑作や畜産物、農作業支援を

することで、村内販売による一定の循環がされていると考える。

問 米の出荷量に相応した支援策はどうか。

答 観光振興課長 併せて後継者対策の支援もできないか。

問 自治体の支援状況など研究する。

水道の公共性を守り地元事業者との連携を

問 施設の経年劣化への対応は。

答 村長 計画的な更新をしていく方針だ。

問 地元水道事業者の育成や確保は。

答 村長 災害対応も含め、村内事業者の協力が不可欠。指名競争入札により、事業を担う機会を提供し、人材育成にもつなげる。

問 職員の専門性が必要。どのように育成

答 村長 情報管理シ

テムなども活用し、職員の知識や技術向上を図っていく。



生活を守る水道事業

職員不足に対応し、利用者の生きがい・楽しみに寄り添う介護を

「ゆとりの介護」を目指す

動画はこちらから



よしおか ひさと 議員
吉岡 久人

問 4月25日掲載の信濃毎日新聞や信州ニュースウェブに子どもを産む中心世代の20～30代女性「若年女性人口」が半数以下になるとの推計が根拠として、当村が社会減対策が極めて必要と指摘された。（民間組織「人口戦略会議」）

答 村長 前回に続いて今回も『消滅可能性自治体』となったことについて、村長は「重く受け止めなければならないが、村民は元気に生活しており、悲観すべきことではない」と述べているがその根拠は何か。



国民は「小谷」を『おたり』と読めるか

問 10年前の2014年「若年女性人口」の減少率が県内でも最も高い77・9%だったが、今回は56・3%で21・6ポイント改善した背景について、村長は「前回、10年前の減少率が非常に悪かったため、危機感を持って対策に取り組んできた。子育て支援策や除雪対策などにも力を入れ、『日本一住みやすい村』だと発信したことが要因ではないか」と分析したが、前松本村長からの対策も含め年次毎の対策とその効果を詳細に説明を。

答 村長 前任の対策については、当人の考え方と相違があつてはいけないので、細かくは答弁しない

消滅可能性がある」と指摘された当村について

悲観すべきことではない

動画はこちらから



答 村長 多くの村民は、毎日元気に活躍してくれているものであり、自治体の長として、自分自身が悲観するような気持ちで村民のみならず、全国に発信するつもりがないことからだ。村の将来を悲観的に捉えた発言は行政に携わるものとして現にはいけないことと考える。

問 4月25日掲載の信濃毎日新聞や信州ニュースウェブに子どもを産む中心世代の20～30代女性「若年女性人口」が半数以下になるとの推計が根拠として、当村が社会減対策が極めて必要と指摘された。（民間組織「人口戦略会議」）

答 村長 前回に続いて今回も『消滅可能性自治体』となったことについて、村長は「重く受け止めなければならないが、村民は元気に生活しており、悲観すべきことではない」と述べているがその根拠は何か。

問 10年前の2014年「若年女性人口」の減少率が県内でも最も高い77・9%だったが、今回は56・3%で21・6ポイント改善した背景について、村長は「前回、10年前の減少率が非常に悪かったため、危機感を持って対策に取り組んできた。子育て支援策や除雪対策などにも力を入れ、『日本一住みやすい村』だと発信したことが要因ではないか」と分析したが、前松本村長からの対策も含め年次毎の対策とその効果を詳細に説明を。

答 村長 前任の対策については、当人の考え方と相違があつてはいけないので、細かくは答弁しない



今年度から始まった『こども家庭センター』

女性の声を村づくりに

～議会議員と女性との懇談会～

小谷村民の声を村政に『届ける』、『考える』という目的で、去る6月20日議会議員と村内在住の女性との懇談会を開催しました。特にテーマは設けず、村政に対する意見、質問また、課題や困りごとそして要望などディスカッションを行いました。

子育て世代の
コミュニティの場



安全な通学路の確保を!



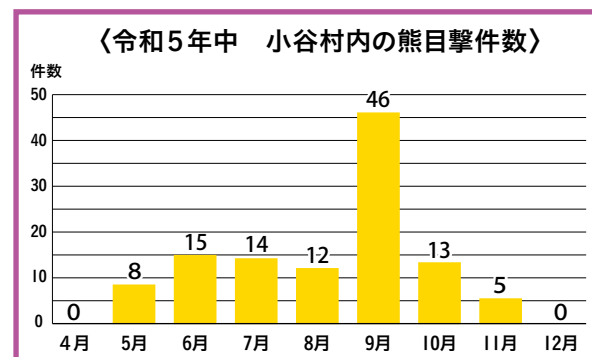
熊の通り道が通学路である。道路脇は草木生い茂り、見通しも悪い。農地の耕作放棄も原因であるが、事故を防止するためにも何らかの対策をお願いしたい。



峰と千国間の
通学路



近年の熊出没資料



熊の出没は全国で多発しており、小谷村でも令和5年中に113件の目撃情報がありました。熊の捕獲だけでなく、出没しにくい、また互いに距離感のある環境作りは必要です。出没しにくい環境は、森林整備も含めて計画的な対策を検討していきたい。

吉岡総務委員長



往来車両の速度が
課題の村道



児童のバス停付近、観光客含め車両のスピード制限ができていない。法定速度を守らない車両が多い。バス停では児童が待機している。

現場は把握している。バスの運転手からも事情を聞いている。事故のないように対策を考えていきたい。

深澤英喜議員



子育て環境の充実を!

妊婦に対するフォローが必要。特に嫁にきた方は頼るところが欲しい。産婦人科の情報なども含め、産前からの支援がもっと充実すればいい。



「おたりつぐら」へ育児中の子ども達を連れて利用している。スタッフの対応もよく良い環境で子どもを遊ばせることができる。遊具やおもちゃなど備品を充実すれば、もっと遊びに来る施設になるのでは。



子育て世代の活動や集まりにも参加していきたい。皆さんからもっと意見を伺って、充実した子育て環境を作っていきたい。

田原富美子議員



参加者からの、こんな意見もありました!

雇用者確保、人手不足が深刻!

- 雇用者の住むところに苦慮している。村営住宅も入居要件があり利用しづらい状況。白馬村や小川村から通勤せざるを得ない。住むところなければ雇用は確保しにくい。
- 主婦層、時間給の良い白馬村へ働きに行く状況。もっと村内で雇用循環できないか? 季節労働も循環できる仕組みがあればいい。

食費の無償化の議論を!

- 給食費の無償化について、アンケートだけで結論を出すのではなく、今後も子育て環境の充実を踏まえ、しっかりと議論していただきたい。ぜひ実現してもらいたい。

女性に活躍の場を!

- 資格取得や研修など、小谷村で活躍するための講習や受験の支援、また企業では、資格取得に対する時間的協力が欲しい。

大系線を大切に!

- 今年からバス運行されている。大系線を残そうと言ってるのに、バスの運行は疑問である。

夕食難民課題は深刻、観光地再生を!

- 夕食難民多い状況、外国人は街歩きしたい。
- 桐池高原、温泉がない。第2の道の駅(地元も一緒になって利用できる)があればいいな。

子育てママたちの集まりも見してほしい!

- 議員も、ママたちの集まりなどにも積極的に来てもらって、活動の見学、意見なども聞いてほしい。

不耕作地と鳥獣対策を何とかしたい!

- 不耕作地の増加が鳥獣被害とも関連している。不耕作地を何とかしたい。栽培強化も含めて考えていきたい。

教育環境の再点検を!

- 危険箇所を再考した遠足やイベントを望む。
- 子育て、教育に関する金銭支援だけでなく、カバンなど現物支給の支援も。
- 子ども達が夏休みにプールで遊べる環境を。

食の大切さをアピール

- オーガニック・地産地消、食の大切さ、必要性を考えるべき。
- 小谷の地物をもっと観光客に利用したい。村でコーディネートしてほしい。

小谷村行政について

- 近年、国・県の補助金は、従前と比べ減少していないか?
- 村長と議会の関係性はどうか?
- 村長も議会も、村民を見て議論してほしい。

障がい者にやさしい村にできないか!

- 障がい者に対する理解ができていない村である。障がい者も住みやすい村、障がい者の気持ちがわかる村にしたい。
- 障がい者自立支援法ができてから、国などは自治体へ事業事務を移管してきた。それにより、障がい者に対する支援や対応など自治体格差が広がっている。

懇談会での意見等の一部です。様々な課題、意見、要望、夢を聞かせてもらいました。これからの村づくりに参考にさせていただきたいと思います。今後も各関係者、村民との懇談、意見交換会の開催を予定しています。皆さんのご意見を村議会にお聞かせください。

議会活動報告

1 国会議員を訪問しました！

訪問しました！

5月22日、正副議長が衆議院会館を訪問し、務台・下条・高鳥議員と懇談をしました。高鳥議員（新潟県）とは、主として長野県と新潟県を結ぶ松本糸魚川高規格道路、大糸線に関して懇談してきました。白馬村議長も同行し、道路・鉄路の必要性について意見させてもらいました。



高鳥議員を訪問

2 柵池自然園の課題を現場で！

現場で！

6月18日、要望・課題・相談のあった柵池自然園等の現場視察を実施しました。白馬大池へ向かう登山道において、危険箇所や想定される事故、また災害時の迂回候補となる道についても、小谷村遭難対策協議会の方から説明を受けました。



柵池自然園上部の登山道確認

柵池自然園内では、楠川トイレの現状を確認しました。設置場所や構造、管理運営体制について、おたり



自然園内のトイレの現状を調査

振興公社から説明を受けました。約100ヘクタールの高層湿原、5キロに及ぶ木道や周遊道、非常時の避難など危機管理も合わせた観光地づくりの必要性も再度認識してきました。



3 小学生の真剣なまなざし

小谷小学校6年生11名が、

6月6日、6月定例会一般質問を見学しました。行政離れ、議員不足など地方自治との関りが希薄なこの時代、小学生からの訪問は感謝すべきところでは。小谷の村づくり、少子高齢化や過疎化など質問と答弁を真剣に聞く姿が印象的でした。遠慮なくご提言をお願いします。



小谷小学校6年生が本会議を見学

編集後記

この議会になって初めて村の女性の方々と懇談する機会を持ちました。その中で知らされたことは、もともと議会や議員を身近に感じてもらいたいと思ったことです。身近に感じていただけない一番の原因は、私たちの発信力の弱さかも知れませんが。そこで、この6月定例会からは一般質問の様子を村のCATVのほかユーチューブでも視聴できるようにいたしました。

また、定例会毎発行の『議会だより』も何時も手に取って目を通していただけるようもっと工夫していきたいと考えています。皆様のご意見やご感想を是非お寄せください。

（広報委員長 相澤 稔）